

大学・高専機能強化支援事業
（学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）【支援１】
事業概要

令和5年7月時点

1. 基本情報

選定年度	令和5年度	学校コード	F118210105602
大学名	福井県立大学	設置区分	公立
学校種	大学	都道府県	福井県
大学全体の総収容定員数	1,670 名 ※令和5年5月1日時点		
学部学科組織構成	経済学部（経済学科、経営学科）、生物資源学部（生物資源学科、創造農学科）、海洋生物資源学部（海洋生物資源学科、先端増養殖科学科）、看護福祉学部（看護学科、社会福祉学科）		

2. 事業概要

本学では、①恐竜学部恐竜・地質学科（仮称）（入学定員30名、収容定員120名）・②生物資源学部生物資源学科（検討中）（入学定員50名、収容定員200名）・③生物資源学部創造農学科（検討中）（入学定員30名、収容定員120名）を令和7年度の新設等を予定している。①では、X線CT装置による非破壊調査や画像解析等のデジタル科学の活用を通じた古生物研究により、恐竜ブランドの維持・向上とデジタル技術を活用した新たな価値やサービスを生み出す人材の育成を目指す。②では、環境変動に強い作物品種の育種等のバイオテクノロジーを駆使した食料安全保障の改善や脱炭素化、また、微生物を利用した医薬・食品開発等のグリーンケミストリーを活用し循環型社会の実現を目指す。③では、輸入農産物の県産品への転換や、地域資源を活用した食品加工や観光客が楽しめる収穫・作業体験の提供による付加価値向上、生産、加工・流通、消費にわたるサプライチェーン全体のカーボンニュートラルとスマート技術による生産性向上を実践できる人材の育成に取り組む。

3. 本事業で新たに設置等を行う組織

改組予定年度	令和7年度
認可申請・届出予定	令和5年度 ※既に申請・届出している場合はその年度を記入
改組内容	学部の新設
設置等組織名	恐竜学部恐竜・地質学科（仮称）
設置等組織の学位分野	理学関係
当該学部等の所在地	福井県永平寺町（1年次）、福井県勝山市（2年次～）
入学定員	30 名
収容定員	120 名
入学定員の増加数	30 名
他学部等の入学定員の減少数	30 名

改組予定年度	令和7年度
認可申請・届出予定	令和6年度 ※既に申請・届出している場合はその年度を記入
改組内容	既存学部における学科の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
設置等組織名	生物資源学部生物資源学科（検討中）
設置等組織の学位分野	農学関係
当該学部等の所在地	福井県永平寺町
入学定員	50 名
収容定員	200 名
入学定員の増加数	50 名
他学部等の入学定員の減少数	50 名

改組予定年度	令和7年度
認可申請・届出予定	令和6年度 ※既に申請・届出している場合はその年度を記入
改組内容	既存学部における学科の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
設置等組織名	生物資源学部創造農学科（検討中）
設置等組織の学位分野	農学関係
当該学部等の所在地	福井県永平寺町、福井県あわら市
入学定員	30 名
収容定員	120 名
入学定員の増加数	30 名
他学部等の入学定員の減少数	30 名

※学部・学科を新設する計画である場合は、当該学部等の所在地欄は予定所在地を記入。

※入学定員には編入学定員を含む。



基本情報	<基本情報1> 改組予定年度：令和7年度 改組内容：学部の新設 設置等組織名：恐竜学部恐竜・地質学科(仮称) 入学定員：【R7新設】30名 所在地：福井県永平寺町、勝山市	<基本情報2> 改組予定年度：令和7年度 改組内容：既存学部における学科の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの） 設置等組織名：生物資源学部生物資源学科(検討中) 入学定員：【R7新設】50名（予定） 所在地：福井県永平寺町	<基本情報3> 改組予定年度：令和7年度 改組内容：既存学部における学科の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの） 設置等組織名：生物資源学部創造農学科(検討中) 入学定員：【R7新設】30名（予定） 所在地：福井県永平寺町、あわら市
新設や改組の特徴 ・コンセプト	・X線CT装置による非破壊調査や画像解析等のデジタル科学の活用を通じた古生物研究により、恐竜ブランドの維持・向上とデジタル技術を活用した新たな価値やサービスを生み出す人材の育成に取り組む。	・(1)環境変動に強い作物品種の育種や環境をモニターするICT技術等のバイオテクノロジーの駆使、(2)食料安全保障の改善や脱炭素化への貢献、(3)微生物を利用した医薬・食品開発や未利用生物資源の有効活用等のグリーンケミストリー活用により、循環型社会の実現に寄与する人材の育成を目指す。	・輸入農産物の県産品への転換や、地域資源を活用した食品加工や観光客が楽しめる収穫・作業体験の提供による付加価値向上、生産・加工・流通消費にわたるサプライチェーン全体のカーボンニュートラルとスマート技術による生産性向上を实践できる人材の育成に取り組む。
改組後の教育内容	・文理横断的な幅広い教養と専門基礎を身に付け（1年次）、古生物学や地質学・古環境学を含めた地球科学の知識・技術の活用を学び、デジタル技術の活用を習得。恐竜・古生物コースと地質・古環境コースへ分かれ、より専門知識と科学的思考力を習得し、フィールドにおける実験・実習を中心に実践的な課題解決型学習を行う（2年次～）。 ・デジタルおよび建設防災分野等における地域の企業等と協議を行いながら、防災・ICT分野など多方面から実績のある教員や企業による授業科目の配置を計画する。 ・高校訪問や進学相談会、HP等で積極的な情報発信を行い、学生確保に努める。 ・県立恐竜博物館とソフト・ハード両面から連携し、研究設備の共同利用や博物館研究員による講義の実施や助言等において学生の教育・研究に携わる。 ・新たに県立恐竜博物館に隣接した勝山キャンパスを整備、大型CT装置等を活用し化石標本等のデジタル化に取り組む。 ・新規に採用する教員も含め外部資金獲得に取り組む。	・「情報生物学」や「ゲノム生物学」等でデジタル関連企業から実務者講師を招聘し、ビッグデータ処理などによる実践的かつ専門的な実習を行う。1年次から実験および実習を多く配置し、2年次から研究活動を開始できる「リサーチクレジット」科目を用意する。 ・(一社)日本技術者教育認定機構(JABEE)によるプログラム認定による国際的な質の保証や基礎学力として「情報」の習得をアドミッションポリシーで定めることを検討する。 ・情報ゲノム分野におけるデジタル技術の活用や遺伝資源ビッグデータ活用による環境調査について、地域の企業とカリキュラムの協議を行い、実務者による専門科目の講義を行う。 ・高校訪問や高校生を対象に「プレカレッジ」を開催し学生確保に向けた取り組みを強化する。 ・海外大学を含む幅広い研究機関と共同研究や講義を行っていく予定。 ・微生物を利用した医薬・食品開発のための施設設備や新品種植物の培養設備等を整備していく。 ・AIやIoTを活用した最先端の研究や共同研究等により、外部資金獲得に貢献する。	・「食農環境実習Ⅰ」、「農業インターンシップⅠ・Ⅱ」など地域社会と交流し課題を解決する講義を開講、「地域農政学」や「農業経営論」により経営戦略やマーケティングを強化する。また、食品機能の観点から県産品のブランド化を強化する。 ・6次産業関連事業者や地域の企業、生産農家などと幅広く意見交換を行いながら、食・農・環境分野の実務に精通している農業者を特任講師として任命し、生産から加工販売まで一貫して経験させるための実習を行う。 ・オープンキャンパスだけでなく、大学祭や収穫祭を開催し、県内外にその実践的教育の成果をアピールし学生の確保に努める。 ・他大学や研究機関等と連携し、高付加価値作物の開発や県内の農に関わる企業と連携した教育を実施する。 ・輸入農産物を県産品に転換して6次産業化を進めるため、実習や加工技術を修得に用いる施設設備等を整備していく。 ・民間企業との共同研究等により、大学の外部資金獲得に貢献する。
PRできるポイント	・海外大学や研究機関の教員によるオンラインでの講義や、海外における発掘調査等も検討し、海外でのコミュニケーション能力の向上を目指す。 ・県立恐竜博物館と連携し来館をきっかけとした女子学生等の恐竜への興味関心を育てるイベントを実施する。 ・社会人向けに特別選抜の実施、留学生向けに特別選抜や入学後の支援体制を検討する。	・県と連携し地元企業とのPBLや共同研究を推進。 ・県内他大学と連携し講義の提供や海外大学との大学間交流による交換留学生の募集を計画する。 ・SSH指定の県立高校へ大学教員を派遣し、高校生の研究活動の指導や評価を実施。 ・高専・専修学校生や社会人向けの3年次編入の検討や留学生向けに日本語教育の支援体制強化の検討を行う。	・県と連携し地元企業とのPBLや共同研究を推進。 ・地域の小中高校への出前講座や探求学習を支援。 ・社会人向けに学士編入の検討を行う。